

研究成果情報		園芸	17	花き花木	病害虫
新技術・情報名	拮抗微生物製剤（バクテローズ）のバラ根頭がんしゅ病に対する防除効果		分類	①	

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

バラ根頭がんしゅ病に対して生物農薬アグロバクテリウム・ラジオバクター剤（商品名：バクテローズ）を育苗期及び本圃定植時の苗に予防的に根部に浸漬処理すると、実用的な防除効果がある。

- (1) バクテローズ（菌濃度約 2.5×10^9 cells/g）を井戸水で50倍に希釈した菌液に、ばら接ぎ木苗の本圃定植時あるいは台木育苗期の改植時に根部を30分～1時間浸漬し、菌液が乾燥しないうちに定植すると実用的な発病抑制効果がある。
- (2) 本剤は、見かけ上健全な苗に対して処理を行うと、前作の発病が著しい病原菌汚染圃場でも予防処理効果が期待されるが、処理時に既に発病している苗に対しては効果がない。
- (3) 本圃における処理効果の持続は処理後約1～3年間認められる。

2) 技術・情報の適用効果

本剤を使用すると、予防的な苗根部浸漬処理によって簡便で実用的な防除効果が期待される。

3) 適用範囲

ばらの切り花生産地域及び苗木生産地域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 微生物農薬であるので、活性を低下させないように、剤の希釈、苗根部の洗浄には塩素を含まない井戸水等を使用し、処理後は菌液が乾燥しないうちに定植する。
- (2) 発病苗に対しては効果がないので、健全な苗木を利用する。
- (3) 本剤による防除法は、1993年度花き花木病害虫防除基準に採用する。

2. 具体的データ

表1 台木（ノイバラ）の育苗圃における防除効果（昭和63年）

処理方法	処理前の 実生苗の 発病株率	処理後5カ月	
		発病株率	1株当たりがんしゅ数
A.st-84 50倍 75分間浸漬	0%	2.0%	0.026個
無処理	0	15.6	0.414

表2 本圃定植時の処理時間と防除効果（平成3年）

処理方法	発病株率		
	本圃定植前	処理後8ヶ月	同2年9ヶ月
A.st-84 50倍 30分間浸漬	0%	4.0%	4.0%
" " 1時間浸漬	0	1.0	1.0
無処理	2.0	11.0	10.5

表3 本圃定植時の苗の発病と防除効果（平成2年）

供試苗の 発病の有無	処理方法	発病株率	
		本圃定植前	処理後8ヶ月
発病	50倍 1時間浸漬	100%	50.0%
"	無処理	100	57.1
無発病	50倍 1時間浸漬	0	16.3
"	無処理	0	27.9

3. その他特記事項

担当部科室名：生産環境研究所 病害虫部 野菜花き病害虫研究室

研究担当者名：池田 弘・大野和朗・中村利宣

研究課題名：微生物利用による防除

期 間：昭和63年～平成3年 予算区分：経常

既発表論文・資料名等：昭和63年～平成3年度野菜花き病害虫関係試験

成績概要書

取りまとめ責任者名：池田 弘